

令和5年度 長野県林業大学校 評価表

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

長野県林業大学校 教育方針

長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域において指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。

- 1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。
- 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。
- 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の林業大学校を目指すには、他校に比べても優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となるが、それは多大なる予算措置を伴うものとなり、非常に厳しいのが現状である。 ・本校では、講義内容の徹底した検討と、企業等との連携協定などにより、資産や施設・機械装備をより効率的に利用することで、より高いレベルの教育内容の実現を目指している。 		B
今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで以上のレベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しを随時教務会議で検討している。 ○安全で正確な最高レベルのチェンソー操作技術取得を目指す「日本伐木チャンピオンシップin鳥取」が10月28・29日に鳥取県で開催され、2年生4名が出場した。令和6年6月に青森県で開催される「第5回日本伐木チャンピオンシップ」に向け、1年生がトレーニングに取り組んでいる。 		B
器具・機械の更新、学習機材・機器の整備及び演習林の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○高性能林業機械については、令和2年度購入のフォワードに続き、令和3年度はウインチ付グラブを購入。また、今年度県が新たに導入した高性能林業機械（ハーバスター等）のシミュレーターも教材に加わり、これらを駆使し、より実践的な実習を実施している。 		B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年10月に、地元企業等から構成された「我ら林大応援団」が設立され、地域を挙げた支援を受けている。 ●平成29年9月に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、コロナ禍以前は高度な高性能林業機械操作実習を実施していたが、5類へ移行した現在、従前レベルの連携・交流の再開に向けて、各校合同での実習の可能性等について模索中である。 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア機との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を実施している。 ○岐阜、京都との3林大のチェンソー技術競技・交流会を11月に本校で開催し、チェンソー技術競技会では総合優勝を獲得した。令和6年度は京都府で開催される予定となっている。 ○令和3年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を11月に3日間、上松技術専門学校で実施した。高度な木材加工技術の取得が期待される。 	<p>県で高性能林業機械（ハーバスター等）のシミュレーターを導入したことから、これらの機器を活用した実習を行った。次年度以降に岐阜県立森林文化アカデミーとの合同実習等ができるようになれば、高性能林業機械の実習等がより充実できると考えられる。</p>	B

<p>2年生の進路の早期確定と2024年度入学志願者の確保</p>	<p>○一年次から面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう促してきた。またインターンシップや会社訪問などを本人の希望等を尊重しながら実施した。 ○公務員志望者に対しては、教職員がそれぞれの担当分野について放課後に特別講義、及び面接練習を実施した。 ○6月～7月上旬にかけて、県内11の公立農林系高校の全て、近年の受験実績等をふまえた46の公立高校等への学校訪問を実施し、本校への受験を促すとともに、本校の見学を希望する学生や保護者、計5組に対応した。 ○適切な感染予防対策を講じた上で、1回目（7月29日）と2回目（8月27日）の計2回「オープンキャンパス」を開催し、入学を希望する者には個別相談にも応じた。（1回目52名、2回目42名が参加（保護者家族等を含む。）） ○こうした取組の結果、2024年度の入学志願者は、推薦・一般併せて32名（うち女子6名）となり、前年度から8名減少はしたものの、ほぼ例年並みの志願者数を確保できた。</p>	<p></p>	<p>B</p>
-----------------------------------	---	---------	----------

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る。	<p>【継】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。</p> <p>【継】 学生が、自ら考える力を習得できるよう指導できたか。</p> <p>【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。</p>	<p>○アンケートや小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開している。 ○感染症対策として、より広い面積が確保できる講堂及び製図室を教室として使用するとともに、タブレット端末の個別貸与によるオンライン授業の導入等の学習環境の向上を図った。 ○林業DXに対応する環境にするため、製図室の学生用PCを更新した。また製図室のみで使用していた教育用サーバのクラウド化及び、教育用Wifiの受信エリアの拡張（各学年教室、及び講堂）を行い、よりタブレット等での学習が進む環境を整備した。</p> <p>○学生の自主性を重んじる「自主研究」の充実を図るため、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組み、「自主研究」の成果発表会では学年を超えた質疑応答が行われた。 ○一昨年度から新たに位置づけされた、演習林をフィールドとした自主研究活動が展開されている。また、授業の中では、グループに分かれて課題を検討して、その内容を質疑応答するなど「学生自身が考えて学ぶ機会」を増やすことにも取り組んでいる。</p> <p>○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。</p>	<p>林業士の不足に対し、地域内外からの人材支援を図る。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>

	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進や、現場で使える知識、技術、時代変化に対応し林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが図られたか。	○現場からのニーズの変化に対応し、令和8年度からのカリキュラムの変更に向けて、県庁担当課と検討しており、検討には林業総合センターも参加している。 ●カリキュラム変更時には、旧カリキュラムの履修学生と新カリキュラムが混在するなどの学生対応や、外部講師との綿密な調整など、授業運営の負担が増え、学校職員への負担が大きく増加することが懸念されるため、体制の整備が必要。		C
		【継】卒業生、在校生、保護者へのアンケートを踏まえ、県庁担当課と今後の本校の目指す姿を含めた新たな授業内容を検討できたか。	○アンケート結果を踏まえ、県庁担当課と協議を実施。今後の林大の在り方と目指す姿を検討した。		B
	効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【継】他大学、地域（木曽青峰高校を含む）、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	●平成29年9月に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、コロナ禍以前は高度な高性能林業機械操作実習を実施していたが、5類へ移行した現在、従前レベルの連携・交流の再開に向けて、各校合同での実習の可能性等について模索中である。【再】 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア㈱との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を実施している。 【再】 ○岐阜、京都との3林大のチェンソー技術競技・交流会を11月に本校で開催した。【再】 ○令和3年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を11月上松技術専門学校で実施した。高度な木材加工技術の取得が期待される。【再】 ●木曽青峰高校との連携については、「トップガン講習」など連携可能な授業の見学などを計画したが、双方とも授業日程の調整が難しく、実現していない。	県で高性能林業機械（ハーベスター等）のシミュレーターを導入したことから、これらの機器を活用した実習を行った。次年度以降に岐阜県立森林文化アカデミーとの合同実習等ができるようになれば、高性能林業機械の実習等がより充実できると考えられる。【再】	B
		【継】「木曽谷・伊那谷フォレストバレー」の形成や、林業大学校・木曽青峰高校、上松技術専門学校での三校連携を図るため、協議会の場などで今後のビジョンの方向付けが出来たか。	○令和5年11月に開催された「木曽地域三校連携推進会議」では、人材育成や就職支援に対する各校の取り組みや、地域の課題や課題解決に向けた意見交換が行われ、次年度に向けた連携の強化について確認した。 ○各校の担当者レベルによる「幹事会」も開催され、より具体的な行事や授業等での連携について情報交換などを行った。	今年度は、双方の授業の日程が折り合わず、資料の提供などにとどまったが、今後は、可能な範囲や方法での連携を図っていく。	B
進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】・1年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】・2年生は12月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】・円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は個人面談やインターンシップ等により希望を把握している。 ○2年生は個人面談により就職先を確定できるよう取り組み、12月末までに全員の進路内定をいただくことができた。 ○インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深める。		B
		【継】・就職ガイダンスや企業合同説明会、林業労働財団就職説明会などを通して、円滑な就職への取り組みができたか。 【継】・会社等とのマッチングの仕組みは検討できたか。			B
	就職・進学の情報提供	【継】・学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームページ等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。		B

生活指導		<p>社会的規範意識を高め、基本的生活習慣の育成</p> <p>【継】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【継】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。</p>	<p>○コロナウイルス等の感染防止の観点から、学生個々の健康管理意識の高揚と、必要に応じたマスク着用、手洗い・手指消毒、換気等を図るとともに、健康な体づくりのため毎朝のラジオ体操、健康チェックを行った。 ○水無神社例大祭（みこしまくり）に参加したほか、「木曾の手仕事市」へのボランティアスタッフ参加、木曾こども園児への「しいたけ植菌体験」指導、「木曾町駅伝競走」、「雪灯りの散歩路」へのスタッフ参加など、地域とのつながりをできる範囲で行っている。 ○教務会議を4月から2月までに32回開催し、職員間の情報共有や対策の検討が図られた。 ○専門のカウンセラーを委嘱し、学生の悩み事相談にのっている。</p>		B
		<p>【継】 寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】 学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【継】 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。</p>	<p>○寮部屋をコロナ禍前の学年混合の体制に戻し、学年間の交流や寮内での各係の役割分担や自治組織の適切な運営ができるように努めている。 ○代表的な寮の自治活動である寮祭については、感染症対策、安全対策を充分に行った上で、コロナ禍前に規模を戻して学生主体で10月7日に開催し、多くの地域の方や保護者の方に参加していただいた。 ○教務会議を通じて、教授間の情報共有を図り、方向性を明確にしながら、学生自治会との情報共有を図ることとしている。</p>		B
教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	<p>【継】 実習等に必要機械・設備は充分確保されているか。 【継】 関係機関との連携により、保有していない高性能林業機械分の必要機械の効率的な利用ができたか。 【継】 演習林の整備に向けて、木曾青峰高校や地域の関係者との協議が図られたか。</p>	<p>○チェーンソーについては、最新式を1人1台所持して実習できる体制となっている。 ○労働安全規則改正に伴い、防護スボン、防護ウエア、防護ブーツ、イアマフ付ヘルメットなど、安全装備1式をトータルコーディネートで導入している。 ○高性能林業機械の一種であるウインチ付グラブプルを令和3年度に購入し、実習の充実を図っている。 ○演習林の木曾青峰高校との共同利用について、4月以降複数回、打合せを実施した。今後はより具体的な取組みについて議論していく予定。</p>		B
		<p>【継】 林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。</p>	<p>○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、チェーンソーの保守点検簿が作成されている。 ○実習用ドローンの更新（リース）や、電子輪尺の導入などの実習を進めるための新しい機材の導入を行っている。</p>		B
	学校用地や施設の適切な維持管理	<p>【継】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【継】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。</p>	<p>○令和4年4月の新しい男子寮の供用開始以降、学校スタッフと学生により備え付け機器を含めて適正に管理されている。 ○実習ごとに機器の管理及び、施設内の整理を行うとともに、週ごとの定期清掃を学生が実施している。 ●施設の維持管理を適切に行うためには費用がかかる。</p>	引き続き適切な維持管理のための予算要求を行っていく。	B
学校運営	林大の魅力発信と	<p>充実した学生募集のPRを実施する。</p> <p>【継】 学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大の関心を高めることができたか。</p>	<p>○5月に学校案内（パンフレット）及びポスターを「令和6年度対応版」として作成し、過去に受験実績のある県内高等学校、本校への入学実績のある県外高等学校、県内全市町村、県内林業関係団体等に配布した。 ○6月～7月上旬にかけて行った、県内11の公立農林系高校、46の公立高校等への学校訪問や、本校の見学を希望する学生や保護者計5組の学校見学の際にも学校案内パンフレットを有効に活用した。【再】</p>		B

学生確保の活動		【新】他県にも多くの林業系短期大学校等が設立される中、本校を選んでもらえるよう魅力を発信できたか。	○国内・世界最高レベルの技術取得を目指すJLCC(「日本伐木チャンピオンシップ」)の競技状況や成果・成績を、学校HPや学校訪問、オープンキャンパス、視察やイベント時等、あらゆる機会を捉えてのPRに努めた。 ○新型コロナが5類へ移行したため、オープンキャンパスや学校見学は、見学箇所に関し極力制限をかけず、新男子寮内も案内・見学してもらい、保護者も含めて、寮での日常生活が具体的にイメージ出来るように努めた。 ○2月に上伊那地域振興局林務課と連携して、在校生も参加した形での学校紹介を行った。		B
		【継】オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。	○オープンキャンパスは、新型コロナが5類へ移行したため、参加人数に制限をかけず、2回実施した。案内や説明役として在校生を中心に、参加者からは「学生の説明がわかりやすく、具体的にイメージできた。」「林大生のスゴ技披露がすばらしかった。」と大きな関心を寄せていただいた。 ○過去に受験実績のある県内高等学校57校を訪問し、進路指導主事等に面会して本校への入学志願者確保に努めた。 ○2024年度の入学志願者は、推薦・一般併せて32名(うち女子6名)とほぼ例年並みの水準を確保できたものの、県内の志願者数は全体で前年度より3名減っており、今後も学校訪問活動による当校メリットの積極的なPRは欠かせない。		B
		【新】女性志願者の確保に向け、創意工夫を凝らしたPR活動が出来たか。	○5月に「令和6年度対応版」として製作した「学校案内(パンフレット)」及び募集用ポスターでは、女子学生の実習写真を多く掲載し、OBメッセージでも現在森林組合で活躍するOGの声を載せるなど、女子志願者の動機づけになる工夫をした。 ○7月と8月のオープンキャンパスでは、会場に「先輩からのメッセージ」展示コーナーを新たに設け、現在林業事業体や森林組合・行政等で活躍する女子卒業生の姿を写真でも紹介し、来校した学生や保護者の志願動機づけになるよう努めた。 ○こうした取組の結果、前年度は1名にとどまった女子の入学志願者は6名となり、一定の女性志願者を確保できた。		A
		【継】2024年度入学者の定員を確保できたか。	○推薦・一般併せて2024年度の入学予定者は20名(うち女子3名)となり、定員を確保することが出来た。		B
	ホームページの充実を図る。	【継】魅力的なホームページとなっているか。 【継】学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【継】必要な情報提供が行われているか。	○現在情報発信の主流となっているSNS(フェイスブック、インスタグラム)には学生が主体となって、実習や地域行事への参加等の状況を随時更新を行い、多くの「いいね」をいただいている。 ○県公式ホームページでは、公式な学校情報を適時適切なタイミングで公表し、本校独自アカウントのホームページでは、県公式ホームページでは使えない動画などを利用した学校紹介などでPRを行うなど、ニーズに合わせた情報発信を行っている。		B
その他	コンプライアンスの実践が図られているか。 【継】法令を順守しているか。 【継】予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで、法令を順守して実施している。 ○林務部コンプライアンス行動計画に基づき行動している。 ○予算執行については、適時的確な予算施行を行っている。 ●学校運営に必要な費用の継続した確保の対応	引き続き予算確保に向けた取り組みを行っていく。	B	